

いそがしく

時計の動く 師走哉 (子規)

光陰矢のごとし。1年があつという間に過ぎ去つていきます。

感動いっぱい 感激いっぱい の いのちを生きたい…

これは、「いのちの詩人」と称される相田みつをさんの言葉です。

命について考えさせられる物語に「窓の外」があります。

余命いくばくもない人たちがベッドを並べる病室。そこは、死の恐怖におびえ、会話もなく暗い雰囲気です。

ある日、窓際のベッドに横たわるヤコブさんが独り言のように窓の外の様子を話します。

「かわいい男の子が子犬を連れて散歩している…」、「道端に黄色い花が咲いている…」ヤコブさんはみんなに笑顔で話してくれます。

そのうち誰かが「自分も窓の外を見たい」と言い出すのです。ところが、ヤコブさんはベッドをどうしても代わろうとしません。

そんなヤ

コブさんに

「なんてわ

がままな人

だ」と、み

んなが怒り

だしてしまいます。

しばらくしてヤコブさんが旅だったとき、窓際のベッドに近づいて外を見ると、そこには壁しかありませんでした。

ヤコブさんは、本当は何にも見えないのに、みんなに希望を与えようと作り話を聞かせていたのです。ヤコブさんのやさしさに泣き崩れてしまふ、という話です。

「人は何のために生まれてくるか」と問われ、「それを考えるためです」と語ったのは宮沢賢治です。

私たちはさまざま人間関係の中で生きています。ヤコブさんのような人がいっぱい周りにはいるかもしれない、そう思う年の暮れです。

指宿市長 豊留 悦男

